

令和7年8月19日

国立大学法人一橋大学長
中 野 聡 殿

国立大学法人一橋大学
学長選考・監察会議議長 福川 裕徳

国立大学法人一橋大学長の業務執行状況の確認について（通知）

このことについて、国立大学法人一橋大学学長選考・監察会議による、対象期間（令和6年4月1日～令和7年3月31日）における結果概要を下記のとおり通知いたします。

記

（１） 創立150周年を迎えようとするこの節目にあたり、学外関係者や如水会との交流を積極的に推進し、学長として渉外活動の要を担った。その結果として、創立150周年記念募金の積み上げも含め、本学の社会的・財務的基盤の強化に多大な貢献を果たしている。また、指定国立大学法人推進構想をはじめとする多様な取組の推進にも継続的に尽力しており、戦略的採用計画に基づく若手研究者の増員や、年間英文業績数の目標達成に象徴される論文数の増加、過去最多の外国人留学生数の実現など、多くの成果が着実に顕在化しつつある。これらを総合的に踏まえ、業務執行状況については適切なものであると評価する。

（２） 次に示す各種個別的な取り組みも評価に値する。ソーシャル・データサイエンス学部・研究科については、花開かせるべく手腕を発揮して現在の発展が実現している。社会との共創に向けた多様な取組が進められており、中でも多摩地域におけるスタートアップ支援については、極めて意義深く独自性のある取組である。事務職員の大学経営人材としての育成に力を注ぐとともに、海外の大学との交流プログラムなどを通じた国際的な視座に立った取組も積極的に展開している。さらに、地方出身者や女子学生への住まい支援については、実効性の高い取組である。

（３） 他方で、教職員の定着率向上や執行部と教職員間の対話機会の拡充などに改善の余地がある。特に若手教員の減少への対応は持続可能な大学運営のために重

要な課題であり、プロボストオフィスのような役割を担う組織の整備・充実はこの改善につながると考えられる。また、戦略的パブリシティ活動についても課題があり、地方を含めた本学の認知度向上を図るため、より計画的かつ意識的な展開が求められる。

（４）特に注目すべきは、学長が示した「次期学長に向けた所感」である。大学間連携のあり方や学部・大学院改革、さらにはデータサイエンスやグローバルな視点を持つ人材育成の方針に至るまで、そのビジョンは具体的かつ体系的であり、大学の将来の方向性を明確に示している。企業や社会が求める人材像と大学の教育・研究のあり方を有機的に結びつけようとするその構想は非常に示唆に富み、本学の中長期的な発展への強い意志を感じさせ、高く評価できる内容であった。

総じて、学長は積極的な渉外活動を展開しつつ、大学運営のあらゆる面での確なリーダーシップを発揮している。また、将来像の提示も明確かつ説得力に富んでおり、大学の継続性と発展を両立させる手腕を高く評価する。

以上